



株主通信

第214期 2021年4月1日～2022年3月31日

[証券コード:3106]

CONTENTS

株主の皆様へ	1
当社グループの事業概況	3
トピックス	5
サステナビリティ	7
財務情報	8
株式情報・会社情報	9
株主メモ	巻末

株主の皆様へ



平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社グループの第214期連結会計年度（2021年4月1日から2022年3月31日まで）の概況につきまして、ご報告申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、緊急事態宣言等が各地で断続的に発出されるなど新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けるなか、原材料などの価格高騰やサプライチェーンの混乱による調達難などの要因も加わり、本格的な景気回復には至りませんでした。

このような環境下において当社グループは、ウィズコロナが常態化した市場のニーズに対応した営業活動や、社会課題の解決に資する商品・サービスの開発に注力するなど、中期経営計画「Creation'21」の目標達成に努めました。

この結果、売上高は1,322億円（前年同期は1,221億円）、営業利益は75億2千万円（前年同期は32億円）、経常利益は87億8千万円（前年同期は42億4千万円）、親会社株主に帰属する当期純利益は56億円（前年同期は22億円）となりました。

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号

連結業績ハイライト

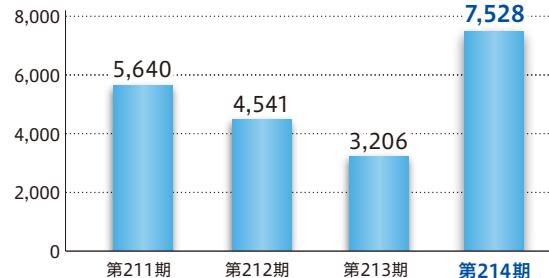
売上高

(百万円)



営業利益

(百万円)



(注) 第214期から、収益認識会計基準等を適用した数値を記載しております。

2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」といいます。)等の適用により、当連結会計年度の売上高は108億円減少し、営業利益、経常利益はそれぞれ6千万円増加しております。

今後のわが国の経済情勢につきましては、新たな変異株による新型コロナウイルス感染症の再拡大が懸念されることに加え、ウクライナ情勢による世界経済の混乱など、景気の先行きは非常に不透明であります。当社グループにおいても、更なる原材料価格やエネルギー価格の上昇に対する価格転嫁の遅れや、サプライチェーンの混乱による生産活動の停滞などが懸念されます。

このような経営環境のなかで、新型コロナウイルス感染症に対しては、事業活動・生産活動への影響を最小限に抑えるべく、引き続き感染拡大の防止に取り組み、コストダウンを図るとともに、原材料価格やエネルギー価格の上昇に対しては、適宜、価格転嫁を進めてまいります。

また、「イノベーションと高収益を生み出す強い企業グループ」を目指すクラブグループ「長期ビジョン2030」のセカンドステージにあたる新中期経営計画

「Progress'24」を、2022年4月よりスタートしました。

「Progress'24」では、「高収益事業の拡大と持続可能な成長に向けた基盤事業の強化」を基本方針とし、成長市場における注力事業へ経営資源を集中するとともに、基盤事業の収益力強化に取り組み、変化の激しい経営環境にあっても、持続的に企業価値を高めていくための最適な事業ポートフォリオを構築してまいります。また、グループガバナンスを強化するとともに、社会課題の解決に取り組むなどサステナビリティを意識した経営を進めてまいります。

なお、当社は、2022年4月4日より(株)東京証券取引所の新市場区分である「プライム市場」に所属しております。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2022年6月

取締役社長 藤田 晴 哉

(注) 当連結会計年度の期首から収益認識会計基準等を適用しております。これに伴い、当連結会計年度における経営成績に関する説明は、前連結会計年度と比較しての増減率を記載せずに説明しております。

経常利益

(百万円)



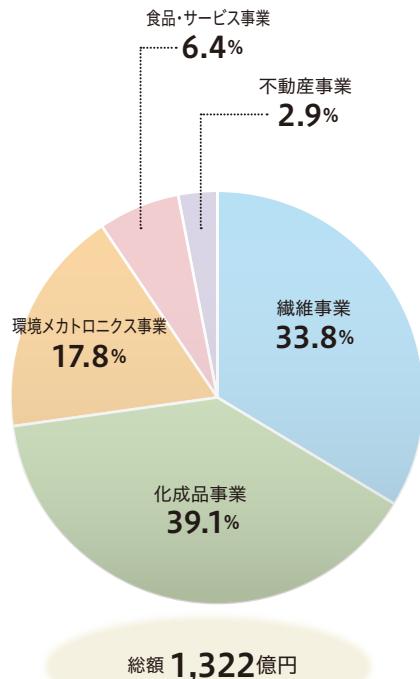
親会社株主に帰属する当期純利益

(百万円)



当社グループの事業概況

事業セグメント別売上高構成比率



(注) 当連結会計年度の期首から収益認識会計基準等を適用しております。これに伴い、当連結会計年度における経営成績に関する説明は、前連結会計年度と比較しての増減率を記載せず説明しております。



繊維事業

糸は、国内やブラジルを中心とした海外子会社の受注が回復し、順調でした。テキスタイルは、ユニフォームおよびカジュアル向け素材が、前年度の新型コロナウイルス感染症拡大による大幅な受注の減少から回復傾向でした。繊維製品は、カジュアル衣料の受注増により回復傾向となりました。また、製造・販売の両面において引き続き収益改善策を実施しました。この結果、売上高は446億円(前年同期は421億円)、営業損失は1億7千万円(前年同期は営業損失18億2千万円)となりました。なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は54億円減少しております。

繊維事業

●糸、テキスタイル、繊維製品(縫製品等)の製造・販売



化成品事業

軟質ウレタンは、自動車メーカーにおける車載向け半導体不足の影響を受けたものの、前年度の新型コロナウイルス感染症拡大による大幅減産に伴う受注低迷からは回復しました。機能樹脂製品は、好況な半導体業界の影響を受けて、半導体製造装置向け高機能樹脂加工品が好調に推移し、また自動車向け機能フィルムの販売が堅調でした。住宅用建材は、新規に開始した防熱工事の受注が順調に推移しましたが、景観材などの販売が低調でした。不織布は、自動車用フィルターが堅調でした。この結果、売上高は516億円(前年同期は485億円)、営業利益は29億7千万円(前年同期は14億円)となりました。なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は53億円減少しております。

化成品事業

●軟質ウレタン、機能樹脂製品(機能フィルム、高機能樹脂加工品)、住宅用建材(合成木材、無機建材、硬質ウレタン)、その他(不織布、機能資材)の製造・加工・販売



環境メカトロニクス事業

エレクトロニクスは、好況な半導体業界の影響を受けて、液体成分濃度計および基板検査装置が好調に推移し、子会社でも半導体洗浄装置の大型案件がありました。また、前連結会計年度末に連結子会社となった(株)セイキの業績も寄与しました。

エンジニアリングは、排ガス処理設備などが堅調に推移し、子会社でも大型プラント案件がありました。

バイオメディカルは、攪拌脱泡装置は順調に推移しましたが、新型コロナウイルス抗体検査試薬キットの販売が減少しました。また、工作機械は、国内向けの販売は低調に推移しましたが、米国および中国向けの販売が回復しました。

この結果、売上高は235億円(前年同期は186億円)、営業利益は27億7千万円(前年同期は15億6千万円)となりました。

なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は4億円増加し、営業利益は4千万円増加しております。

環境メカトロニクス事業

- エレクトロニクス(色彩・生産管理等に関する情報システム機器・検査・計測システム)の製造・販売・保守
- エンジニアリング(環境・エネルギー関連の各種プラント等の設計・製作・施工・販売、バイオマス発電事業)
- その他(バイオ関連製品、工作機械等)の製造・販売



食品・サービス事業

食品は、新型コロナウイルス感染症の影響長期化に伴う、内食需要の継続により成型スープの販売が好調でした。ホテル関連は、緊急事態宣言等による行動制限などの影響により、宿泊や宴会が引き続き低調でした。

この結果、売上高は84億円(前年同期は86億円)、営業利益は2億7千万円(前年同期は2億7千万円)となりました。

なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は6億円減少しております。

食品・サービス事業

- フリーズドライ食品の製造・販売
- ホテル、自動車教習所等の経営ほか



不動産事業

不動産賃貸は、賃貸事業の推進に注力しましたが、一部の賃貸物件の契約期間満了により、売上高は37億円(前年同期は40億円)、営業利益は2億7千万円(前年同期は2億8千万円)となりました。

不動産事業

- 不動産の賃貸

コーポレートサイトのご案内

コーポレートサイトでは、会社案内や、ニュースリリースのほか、IR情報をお届けするため、「株主・投資家情報」を開設しています。

「株主・投資家情報」では、当社グループの中期経営計画、IR資料、株式情報、財務情報など、株主・投資家の皆様のお役に立つ情報を提供しています。

「株主・投資家情報」のページ <https://www.kurabo.co.jp/finance/> ▶▶▶



トピックス

繊維
事業部

JSFA(ジャスファ)へ参加し 社会課題解決に向けた 基盤構築を目指す

繊維事業部は、サステナブルなファッション産業への移行推進を目的とした企業連携プラットフォーム「ジャパンサステナブルファッションアライアンス」(略称:JSFA)に昨年8月の設立当初から会員として加わり、廃棄衣料の削減やカーボンニュートラルの達成に向けた仕組みづくりを目指しております。

当社は、これまで繊維のアップサイクルシステム“L∞PLUS(ループラス)”を活用したサステナブルな取り組みを行っておりますが、JSFAへ参加したことでアパレル・繊維業界

だけでなく、生活者を含めたより大きな枠組みでの循環利用システムの構築に取り組んでいきます。

今後、JSFAに参加している会員企業と連携し、“L∞PLUS”を活用することで生産工程での廃棄物問題の解決だけでなく、廃棄衣料の削減を目指していきます。また、環境に配慮したサステナブル素材の開発や普及活動、カーボンニュートラル達成を目指した環境配慮型生産を推進し、業界を挙げて社会課題の解決に貢献してまいります。



JSFA会員の集合写真

“L∞PLUS”の概要紹介ページ <https://www.looplus-kurabo.com/>



環境
メカトロニクス
事業部

【エレクトロニクス分野】 小型コネクターの自動締結ロボット システムを開発・販売開始

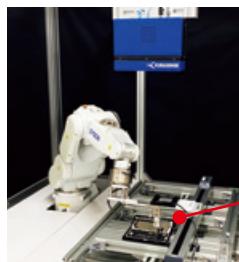
環境メカトロニクス事業部は、独自開発のロボット用高速3Dビジョンセンサー“KURASENSE(クラセンス)”を活用した小型コネクターの自動で締結するロボットシステム“Kurasseem(クラッセム)”を開発し、昨年10月に販売を開始しました。

“Kurasseem”は、従来、ロボットでの自動化が難しかったスマートフォンやゲーム機などの電子機器の製造工程における、小型コネクターの締結作業を自動化できるシステムです。

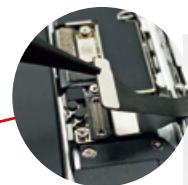
“Kurasseem”は、システムの眼となる“KURASENSE”、垂直多関節ロボット、コネク터를掴み、締結する専用ハンド、コネクターの締結状態を判定するセンサー等から構

成されています。“KURASENSE”がケーブルの先端にある小型コネクターの形状と位置・向きを瞬時に計測・認識し、掴む位置を正確にロボットに指示しコネク터를締結、次に正しく締結されたかどうかを力覚センサーが判定します。

当社独自の技術であるロボットビジョンシステムで、人手不足問題の解消や生産性および品質の向上に貢献します。



小型コネクター自動締結ロボットシステム
“Kurasseem”



スマートフォン



“KURASENSE”の概要紹介ページ

<https://www.kurabo.co.jp/el/kurassense/index.html>



化成品
事業部

冷凍冷蔵倉庫向けの 防熱事業を開始

化成品事業部は、冷凍冷蔵倉庫の断熱と防湿を併せて行う防熱事業を開始しました。

食品の安全・安心を保つコールドチェーン（低温物流）の中心を担う冷凍冷蔵倉庫は、庫内温度が10℃からマイナス50℃までと様々であり、庫内温度と外気温の温度差を考慮した最適な断熱および防湿対策が必要となります。当社は、これまで冷凍冷蔵倉庫向けの断熱材として硬質ウレタンフォームの開発・販売を行ってきましたが、そこで培った原料配合の技術や全国の施工店とのネットワー

クを生かし、防熱計画から設計・施工までを一貫して請け負うことで最適な防熱方式をご提案することができます。また、地球環境に配慮したノンフロン断熱材の活用も進めています。

今後、施工管理体制を強化して同事業での業容拡大を目指すとともに、冷凍冷蔵倉庫の省エネルギー化を通じ、カーボンニュートラルの達成にも貢献してまいります。



防熱施工



冷凍冷蔵倉庫

関係会社
倉敷機械(株)

航空機部品向け 6軸マシニングセンタを 開発・販売開始

倉敷機械(株)は、航空機部品向けに大型の加工対象物にも対応可能な高精度工作機械“KTR-1200”を開発し、昨年11月より販売を開始しました。

航空機部品には、高い強度が求められるため、素材から削り出して大型で複雑な形の部品を製作する方法が採用されています。また軽量化のため、薄肉構造にする必要があり、高精度に加工する高度な技術が求められています。“KTR-1200”は、先端工具の自動交換機能を備え、工具や加工対象物を5軸（上下・左右・前後・回転・傾斜）に動かす5軸マシニングセンタに、通常では工具が届かない素材深部にアプローチするための工具の繰り出し（1軸：

奥）を加えた6軸マシニングセンタです。6軸により大型加工対象物でも1回のセッティングで複雑な形の部品に加工できるため、再セッティングによる位置ズレがなく高精度な加工が可能です。

倉敷機械(株)の本社がある新潟県長岡市は、工作機械では世界トップクラスの

高い技術を持つ企業が集まる地域です。今後も、「長岡Quality」に誇りを持ち、世界のものづくりに貢献してまいります。



KTR-1200

“KTR-1200”の概要紹介ページ
<https://www.kuraki.co.jp/mother-detail/ktr-1200/>





社会貢献活動

●10-100 (テン・ハンドレッド) プロジェクトを継続

クラボウグループは、清掃活動の参加人数に応じてクレンゼ(抗菌・抗ウイルス機能繊維加工技術)のタオルハンカチを保育園などへ寄贈する「10-100プロジェクト」を実施しています。昨年の参加累計人数は680名となり、6,000枚のタオルハンカチを保育園や高齢者施設、大阪市、倉敷市などに寄贈しました。今後も地域の環境美化や感染症対策に貢献できるよう取り組んでまいります。



寄贈シーン

ダイバーシティ&インクルージョン推進の取組み

●誰もが持つ無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス) 解消の取組み

クラボウは、アンコンシャス・バイアスの研修会を、本年1月から7回に分け開催しました。2019年度にアンコンシャス・バイアスに関する啓発冊子を作成し全社員に配布した上で、グループの役員・管理職を対象に研修会を開催しましたが、今回は未受講の社員約530名を対象とした研修会をオンラインで行いました。講師にはダイバーシティ&インクルージョン推進支援事業などを行っている合同会社Respect each other代表の天野先生をお迎えし、アンコンシャス・バイアスの組織への悪影響や解消法などを、身近な事例を使い教えていただき非常に有意義な研修会となりました。



オンライン研修会

●新型コロナウイルス感染症拡大に対する支援

クラボウと日本ジフィー食品(株)は、本年1月から3月に、日本ジフィー食品(株)のオニオングラタンスープを、大阪コロナ大規模医療・療養センターの運営の支援品として1,360食分、また医療従事者などの支援を目的とした大阪RAC*主催チャリティバザーへのバザー品として160食分、計1,520食分を寄贈しました。

*大阪RAC:
大阪ロータリークラブ
が提唱する組織



●父親を楽しむ「ファザリング・スクール」に社員が参加

クラボウは、仕事と育児の両立を積極的に支援しています。その一環として、父親が育児に必要な知識を学び、パパ友ネットワークをつくり、父親であることを楽しむための外部講座「ファザリング・スクール」への参加を子育て中の父親社員に呼びかけました。参加した社員からは、「育児負担の大きさに気づき、育児への関心が高まる良い機会になりました。」などの声が寄せられました。今後も子育て世代が働きやすい職場環境の整備に努めてまいります。

クラボウのダイバーシティ&インクルージョンページ
<https://www.kurabo.co.jp/sustainability/society/diversity.html>



財務情報

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)	科目	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
資産の部			負債の部		
流動資産	78,087	78,397	流動負債	47,292	42,761
固定資産	92,346	88,888	固定負債	28,136	27,109
有形固定資産	51,565	49,686	負債合計	75,428	69,870
無形固定資産	1,364	1,378	純資産の部		
投資その他の資産	39,416	37,823	株主資本	91,620	94,461
資産合計	170,433	167,285	その他の包括利益累計額	1,784	1,555
			非支配株主持分	1,599	1,398
			純資産合計	95,004	97,415
			負債純資産合計	170,433	167,285

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (2020年4月1日～ 2021年3月31日)	当連結会計年度 (2021年4月1日～ 2022年3月31日)
売上高	122,184	132,215
売上原価	99,805	104,863
売上総利益	22,379	27,351
販売費及び一般管理費	19,172	19,823
営業利益	3,206	7,528
営業外収益	1,888	2,088
営業外費用	852	833
経常利益	4,242	8,783
特別利益	1,967	526
特別損失	2,433	892
税金等調整前当期純利益	3,776	8,418
法人税等	1,633	2,912
当期純利益	2,143	5,505
非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△65	△96
親会社株主に帰属する当期純利益	2,209	5,602

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (2020年4月1日～ 2021年3月31日)	当連結会計年度 (2021年4月1日～ 2022年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,073	9,246
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,262	△3,341
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,324	△14,065
現金及び現金同等物に係る換算差額	△146	174
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	3,338	△7,985
現金及び現金同等物の期首残高	18,720	22,059
現金及び現金同等物の期末残高	22,059	14,073

(注) 当連結会計年度の期首から「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しております。

株式情報・会社情報

当社の株式に関する事項 (2022年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 97,701千株
- 発行済株式の総数 20,756千株
- 株主数 15,042名
- 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,187	10.99
日本生命保険相互会社	920	4.62
株式会社三井住友銀行	782	3.93
株式会社みずほ銀行	782	3.93
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	781	3.92
株式会社中国銀行	726	3.65
三井住友信託銀行株式会社	412	2.07
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	406	2.04
三菱UFJ信託銀行株式会社	305	1.53
クラボウ共栄会	300	1.51

(注) ①当社は、自己株式を868千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
②持株比率は自己株式を控除して計算しております。

当社グループの概要 (2022年3月31日現在)

当社

■創立 1888年3月9日 ■本店 岡山県倉敷市本町7番1号

■主要な事業所

区分	名称	所在地	
営業所 および 研究所	大阪本社	大阪市中央区	
	東京支社	東京都中央区	
	技術研究所	大阪府寝屋川市	
工場	繊維	安城工場	愛知県安城市
		徳島工場	徳島県阿南市
	化成品	寝屋川工場	大阪府寝屋川市
		裾野工場	静岡県裾野市
		群馬工場	群馬県伊勢崎市
		鴨方工場	岡山県浅口市
		三重工場	三重県津市
熊本事業所	熊本県菊池市		

当社グループの従業員の状況

従業員数(前連結会計年度末比増減)(人) 4,164(△149)

(注) 従業員数は就業人員であり、上記のほか、臨時社員・パートタイマー977人がおります。

当社の重要な子会社の状況

区分	会社名
国内	倉敷機械(株)
	日本ジフィー食品(株)
	(株)クラボウインターナショナル
	倉敷繊維加工(株)
	東名化成(株)
	シーダム(株)
	クラボウケミカルワークス(株)
海外	(株)倉敷アイビースクエア
	クラシキド・ブラジル・テキスタイル(有)
	タイ・クラボウ(株)
	(株)クラボウ・マングアル・テキスタイル
	広州倉敷化工製品有限公司
広州倉福塑料有限公司	

(注) 上記記載の重要な子会社13社を含め、当連結会計年度の連結子会社は25社、持分法適用会社は2社であります。

当社の取締役 (2022年6月29日現在)

代表取締役社長	藤田晴哉	取締役	藤井裕詞
代表取締役	北島篤	取締役	岡田治
取締役・専務執行役員	馬場紀生	社外取締役	茂木鉄平
代表取締役	川野憲志	社外取締役	新川大祐
取締役・専務執行役員	本田勝英	社外取締役	西村元秀
取締役	稲岡進	社外取締役	谷澤実佐子

(注) 社外取締役(監査等委員)茂木鉄平、新川大祐、西村元秀および谷澤実佐子の4氏は、いずれも当社が定める「社外取締役の独立性に関する基準」の要件を満たしており、また東京証券取引所有価証券上場規程第436条の2に定める独立役員であります。

当社の執行役員 (2022年6月29日現在)

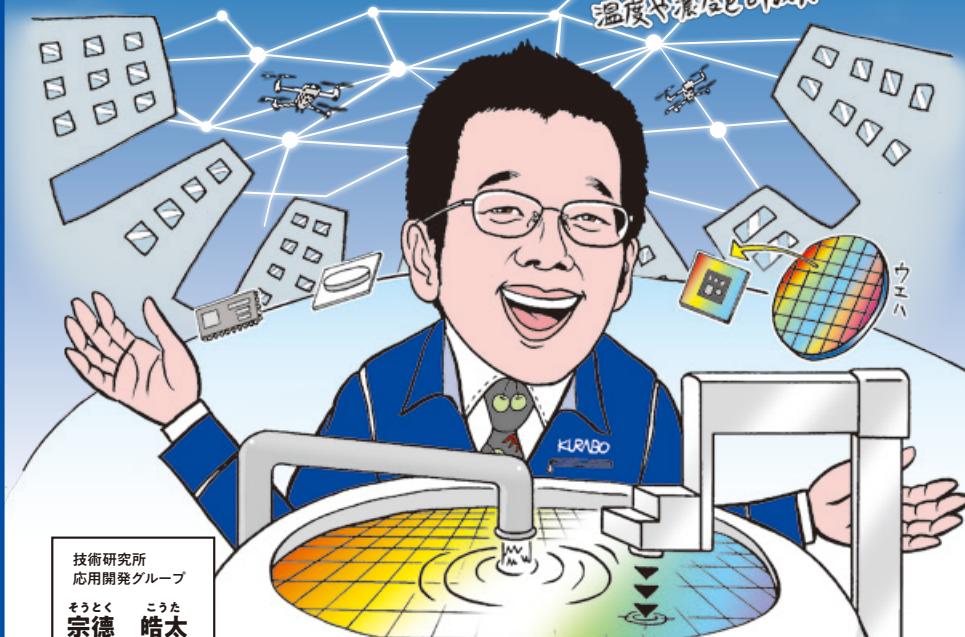
常務執行役員	八木克真	執行役員	松井一雄
常務執行役員	西澤厚彦	執行役員	森重潔
常務執行役員	相徳朗人	執行役員	黒澤昭夫
常務執行役員	中川真豪	執行役員	丸毛浩嗣
常務執行役員	西垣伸二	執行役員	磯部将典
執行役員	平田政弘	執行役員	森松禎文

半導体の品質を センシング技術で支えるクラボウ

5GやIoTなど、社会のDX推進を支える半導体はますます高度化・超小型化し、製造工程の微細化に伴って精密なデータ計測が重要性を増しています。半導体の製造工程では大量の薬液を使用するため、クラボウは独自のセンシング技術を応用し、業界に先駆けてウエハの洗浄を行っているその場 (In-Situ:インサイチュ)でのリアルタイムな薬液の計測を実現。これにより、半導体の品質管理の精度向上と、廃液の削減による環境負荷の低減に貢献します。

※DX(Digital Transformation)

インサイチュ
その場でリアルタイム
温度や濃度を計測!



技術研究所
応用開発グループ
そうとく こうた
宗徳 皓太

狭く過酷なインサイチュで精密な計測を実現した
驚きの発想とは…



面白いことやってやろう。

SEASON IV Episode 4 詳しいお話はWEBで!



株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日
 - (1)定時株主総会・期末配当金 毎年3月31日
 - (2)中間配当金 毎年9月30日
- 公告の方法
電子公告の方法により行います。
公告掲載URL <https://www.kurabo.co.jp>
※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
- 単元株式数 100株
- 株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話 0120-094-777 (通話料無料)

【ご注意】

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。